



YAMATO Leaf archive

くにたち大学通りのサクラ 〈ソメイヨシノ〉

昨年12月の初めのこと。

暮らしのアートギャラリーMのオーナーTさんから1本の電話。「くにたち大学通りのサクラの花を描いてほしい」。

Tさんとお会ったのは10年ほど前のこと。その時からTさんは、「大学通りのサクラの花を……」と言っていた。

大学通りのサクラの樹には、ネームプレートが付いていて、葉っぱの名前が一目瞭然。

私はここで、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、イヌザクラの紅葉した葉っぱとお会った。

葉っぱの形、縁のギザギザの違い、毛細血管のような細かな葉脈に、夢中で絵筆を走らせた。

あれから、24年。

電話の向こうのTさんの声が、大学通りのサクラの葉っぱたちの声のように響いてきた。

これは描かない訳にはいかないなあ……。

2022年3月20日。気象庁が東京のサクラの開花を発表。Tさんからも大学通りのサクラ情報が届きはじめた。

私は天気と気温のチェックを入念に、タイミングをうかがう。

できれば、黒く太い幹にちょこんと咲いた花がいい。つぼみも一緒なのがいい。

3月25日晴れ。

自転車に跨がりくにたち大学通りへ。駅前の樹から順番に見て行く。どの樹も枝が高くで間近で見られない。

人の賑わいもあって、落ち着いての対面はむずかしそう。

紀伊国屋、一橋大学を通り過ぎると、歩道にサクラの花がたくさん落ちていた。

なぜこんなに落ちているのだろう？ きれいなものを5つほど拾ってビニール袋に。

これは！ という花との出会いがないままに、肩を落としてギャラリーMへ。

「なんか、間近で見られないし一脚立を持ってくればよかったーこれじゃあ描けないよー」と

Tさんにぶちぶち文句を言っていると、「これをお使いなさい」と、なんと一脚立が出てきた。

一脚立を背負い自転車に跨がり、再び大学通りへヨロヨロと。

すると、黒く太い幹にちょこんと咲いた、つぼみも一緒の花が！

これだ！ と一脚立によじ登り巻尺で大きさを測る。本物を持ち帰ることはできない。カメラと心にその美しさをとどめる。

太陽の光に透けて、花びらに織り成される陰影が、なんて、なんて、美しいのだろう。

ソメイヨシノの一瞬の命の輝きを呼吸する。角度を変えて三方向から。

ああ、美しい、美しい！ 視覚から取り入れた情報を体の細胞に丁寧に落とし込む。1つの花芽から3つの花が生まれ出る。

つぼみの頃は赤みが強く、開花すると花の中心がうっすらと桃色で、

真っ白い柄のオシベが時間を止めたかのようにメシベを囲みたたずんでいる。

絵が完成した11日後に再び同じ樹を訪ねると、真っ赤なガク片と真っ赤になったオシベを残し花の姿は消え去り、

虫に食われた若葉が茂り始めていた。私が見たソメイヨシノの花のキラメキ。あれは幻だったのかな？

とても不思議な気持ちになった私の中から、ソメイヨシノの花に捧ぐダンスがこぼれ出た。

(公園文化web葉画家・群馬直美のアートコラム3rad season 第5回より)

表紙の絵 「メイヨシノ×2」

登場！ つぼみトリオ、花トリオトリオで世界にこんにちは！

くにたち大学通り市指定63号 55番の樹にて

3月25日午後1時40分出会う

紙/テンペラ・油絵の具 size:332mm×242mm

(作品の完成日は2022年4月9日) © Naomi Gumma

暮らしのアートギャラリーもえぎ所蔵



(ダンスご覧いただけます。)

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神ーこの世の中の一つ一つのもの全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』群馬直美の木の実の美術館』他。東京都立川市在住。https://www.wood.jp/konoha/

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2023年5月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118

TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp